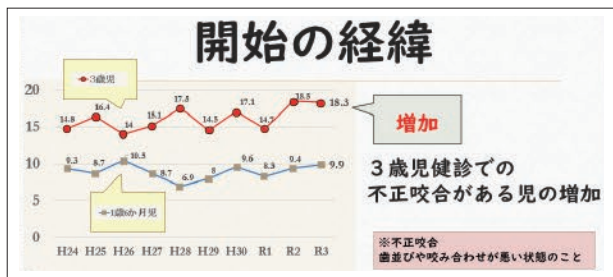


健やか親子表彰 ―自治体部門 優秀賞―

愛知県大府市 10か月児食べる機能健診

取組の背景



大府市で10か月児食べる機能健診を始めるに至ったきっかけは、3歳児の不正咬合が増えている現状にありました。平成24年度から令和3年度の1歳6か月児健診、3歳児健診時の不正咬合がある児の割合を調査したところ、微増ではありますが、3歳で不正咬合の割合が増加していることが分かりました。

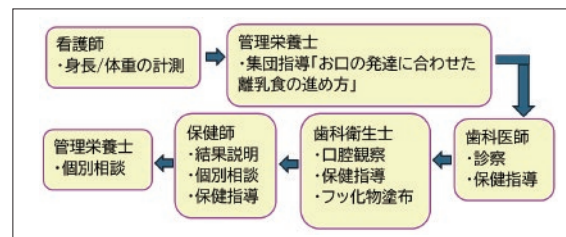
乳児期に適切な口腔機能の発達を獲得することはとても重要で、そのためには口腔機能の発達に応じた離乳食を与えることが必要です。行政の離乳食支援は「授乳・離乳の支援ガイド(2019, 厚生労働省)」に沿って実施しています。ですが、実際に保護者が乳児の身体発達や口腔機能の発達を適正に判断しながら離乳食を進めていくことは難易度が高く、月齢に沿って離乳食を進めてしまっている保護者が多いのが現状です。

これらの経緯から適切な口腔機能の獲得を促し、乳児の歯と口腔の成長発達に応じた離乳食の与え方について支援することを目的とした健診が必要という結論に至りました。大府市歯科医師会にも協力を仰ぎ、検討を重ねた結果、離乳食の後期頃となる10か月児全てを対象に本健診を実施することとなりました。

具体的な取組内容

【実施方法】

本健診は法定の健診ではなく、大府市独自の健診です。市内の対象児に郵送で案内を送付し、月に2～3回の実施、1回の健診で約30人前後が受診します。従事するスタッフは、歯科医師1名、歯科衛生士5名、管理栄養士3名、保健師5名、看護師1名です。



▲健診の流れ

【結果】



▲歯科医師による口腔観察

令和6年度の受診率は94.0%という結果でした。法定の健診ではないにも関わらずこのような高い受診率は、近年着目されつつある口腔機能の発達に対する意識の現れであると考えられます。

口腔機能の評価については、「舌の動きに加え、唇の形や身体の発達等、様々な要因を考慮して総合的に評価する必要がある」と大府市歯科医師会より助言を得ています。本健診では、同じ月齢でも成長に個人差があり、個々の口腔機能の評価に合わせた離乳食支援を行っていくことの必要性和、現段階から次の段階へ発達を促していくことの重要性を再実感しました。

そのため、口腔機能と離乳食がマッチしているかどうかの健診結果を伝えるのではなく、離乳食の形態や正しい姿勢、食具等についての情報提供を行いながら、一方的な指導ではなく保護者と乳児の口腔機能や食について考えを共有することを心掛けています。

【今後の展開】

本健診を通して、乳児の口腔機能の発達に合わせた離乳食の啓発に加え、我々専門職の知識向上に繋がっています。現在は健診後のフォロー体制の見直しを課題の一つに挙げています。本健診は乳児の身体発育や歯の萌出状況、口腔機能の発達、離乳食の形態、育児状況などを包括的にみることが重要であるため、多職種連携が必須です。中でも口腔機能評価は歯科医師による診察が不可欠です。現在、大府市歯科医師会の先生方と保健センター職員が一丸となって、健診後のフォロー体制について検討中です。日々意見を交わしながら、市全体で健診のその後まで手厚くサポートする流れを作りあげています。

健やか親子表彰 優秀賞

受賞者の声 担当者：鈴木美弥、前田さと子

取組を始めた経緯は何ですか？

不正咬合の児が増加している・離乳食の与え方につまづきがある・コロナ禍で相談の機会が減少したなど様々な課題がありました。口腔発達の状況や離乳食の進み具合を確認し、何か支援に繋げ解決できればと考え10か月児食べる機能健診が始まりました。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

10か月児食べる機能健診開始当初は、市のウェブサイトや広報で周知し、新聞やテレビでも取り上げられました。現在では離乳食教室や妊娠期の両親学級などの事業でも周知をしています。今後も様々な場で、この取組を周知していきたいと思っています。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

10か月児食べる機能健診は、歯が生えているか・離乳食は何を与えているかを診たり聞いたりするだけではなく、その先の支援までを目的としています。中でも離乳食の形態に関しては保育園などの食事にも関係してくるため、園の保育士や看護師とも連携を取る必要がありました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

まず保育園へ健診についての説明を実施しました。保護者の中には、離乳食形態を口腔機能の発達に合わせることに戸惑う方もいます。そのような場合に、保健センターと保育園で連携して対応していく必要性を共有できたことで、健診のその先の支援に一歩近づきました。

今後の展望・課題は？

現在、健診後は必要に応じて保健センター職員でフォローを実施していますが、今後は職能団体(市内歯科医師会等)も絡めたフォロー体制を構築していきたいと考えています。日々試行錯誤を重ね、市民に寄り添った健診を目指し頑張っていきます。

評価委員からのコメント

この度は優秀賞受賞を誠におめでとうございます。歯科医師会等多くの関係者とともに独自性の高い事業を展開されていることに敬意を表します。健診後のフォロー体制を構築されることで今後のさらなる発展を期待しております。

国立保健医療科学院 次長 上原 里程

ご受賞、誠におめでとうございます。本取り組みは、課題を的確に把握し、市の専門職の方々が一丸となって具体的なアクションへと結びつけた、非常に優れた事例です。口腔機能発達への意識を高め、専門職の知識向上を促進するこの取り組みが、今後更に発展し、全国へ広がっていくことを心より期待しております。

KODOMOLOGY株式会社 価値開発本部長 岡田 優子

健やか親子表彰「自治体部門優秀賞」のご受賞にあたり、心よりお祝い申し上げます。18歳以下の口腔機能発達不全に係る管理は普及途上と言える中、大府市が専門職・多職種との連携で、意識啓発を行いつつ独自健診を進め、さらには今後への課題分析も行っている取り組みに感銘を受けました。今後の広がりに期待いたします。

連合 総合政策推進局生活福祉局長 小林 司

受賞おめでとうございます。ポピュレーションアプローチに基づく本事業は、乳児期の口腔機能に焦点をあてたライフコースアプローチ、多機関・多職種連携による実施などの特徴があります。今後の展開に挙げられた改善点やそれらへの対策は、PDCAサイクルに基づいた事業運営を反映しており、さらなる発展も期待できます。

実践女子大学 生活科学部 食生活科学科 佐々木 溪円

全国的にも珍しい10か月児の食べる機能に着目した健診ですが、受診率の高さからもニーズを捉えていることがよくわかります。子どもたちの現状に着目することで始まった全国各地に広がるべき取り組みです。ご受賞、おめでとうございます！

埼玉医科大学 高橋 幸子